

# 耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=1.0)

1. 機種 =

2. 形名 =

## 3. 機器諸元 (図1参照)

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W =$   kg
- (2) アンカーボルト
- ① 総本数  $N =$   本
  - ② サイズ・形状  $M =$   形
  - ③ 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A =$   mm<sup>2</sup> =  m<sup>2</sup>
  - ④ 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数  $N_t =$   本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g =$   mm =  m
- (4) 検討する方向からみたボルトスパン  $L =$   mm =  m
- (5) 検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離  $L_g =$   mm ( $L_g \leq L/2$ ) =  m

## 4. 検討計算 (各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h =$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 =$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 =$   N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 =$   N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} =$   N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = F_h / N =$   N
- (7) アンカーボルトに生ずる応力度
- ① 引張応力度  $\sigma = R_b / A =$   MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
  - ② せん断応力度  $\tau = Q / A =$   MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
  - ③ 引張とせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6\tau =$   MPa
- $\sigma =$   MPa <  $f_{ts} =$   MPa
- (8) アンカーボルトの施工法
- ① アンカーボルトの施工法 =
  - ② コンクリートの厚さ =  mm =  m
  - ③ ボルトの埋込長さ =  mm =  m
  - ④ 許容引抜加重  $T_a =$   N >  $R_b =$   N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分なる強度を有する。  
本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

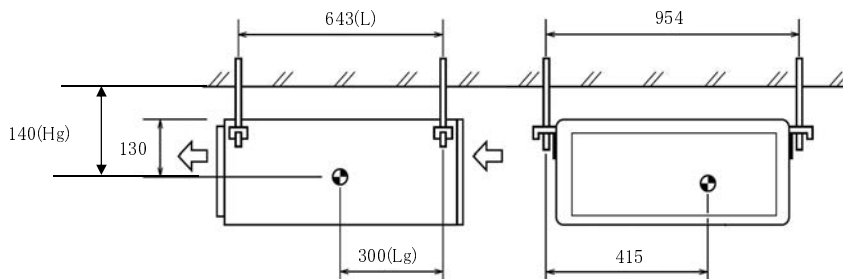


図1

三菱電機株式会社	改定日	16-04-05	仕様書番号	WYN B0-9795	副番	A
----------	-----	----------	-------	-------------	----	---

# 耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=2.0)

1. 機種 =

2. 形名 =

3. 機器諸元 (図1参照)

(1) 機器質量 (運転質量)  $W =$   kg

(2) アンカーボルト

① 総本数  $N =$   本

② サイズ・形状  $M =$   形

③ 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A =$   mm<sup>2</sup> =  m<sup>2</sup>

④ 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数  $N_t =$   本

(3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g =$   mm =  m

(4) 検討する方向からみたボルトスパン  $L =$   mm =  m

(5) 検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離  $L_g =$   mm ( $L_g \leq L/2$ ) =  m

4. 検討計算 (各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度  $K_h =$

(2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 =$

(3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 =$   N

(4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 =$   N

(5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} =$   N

(6) アンカーボルトのせん断力  $Q = F_h / N =$   N

(7) アンカーボルトに生ずる応力度

① 引張応力度  $\sigma = R_b / A =$   MPa <  $f_t = 176.4$  MPa

② せん断応力度  $\tau = Q / A =$   MPa <  $f_s = 132.3$  MPa

③ 引張とせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4 f_t - 1.6 \tau =$   MPa

$\sigma =$   MPa <  $f_{ts} =$   MPa

(8) アンカーボルトの施工法

① アンカーボルトの施工法 =

② コンクリートの厚さ =  mm =  m

③ ボルトの埋込長さ =  mm =  m

④ 許容引抜加重  $T_a =$   N >  $R_b =$   N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分な強度を有する。  
本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

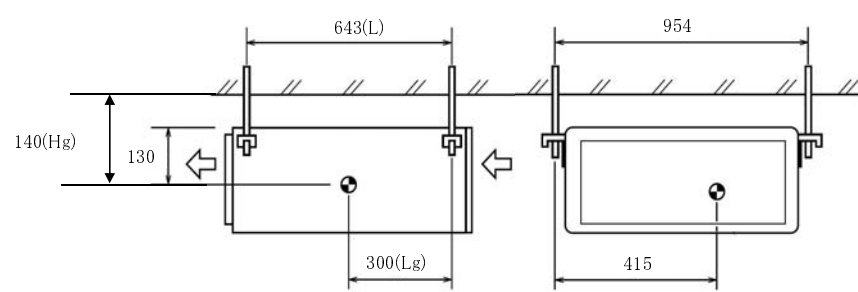


図1

三菱電機株式会社	改定日	16-04-05	仕様書番号	WYN B0-9796	副番	A
----------	-----	----------	-------	-------------	----	---